

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2019年度事業報告

1. 受託事業

[1] 「映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2019」

(文化庁 2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

継続的に実施している人材育成事業。2019年度は下記の事業を実施した。

(1) 「全国コミュニティシネマ会議2019イン埼玉」の開催

実施日：2019年9月6日(金)、7日(土) 会場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ(埼玉県川口市)

共催：全国コミュニティシネマ会議2019埼玉実行委員会

参加者：302名

2019年の全国コミュニティシネマ会議は、埼玉県川口市に設立されたSKIPシティで開催した。国際Dシネマ映画祭をはじめ、新しい作り手の発掘・紹介を積極的に行ってきた上映者によるプレゼンテーションとディスカッション、韓国のアートシネマからのゲストを交えた「日韓コミュニティシネマ会議」と3つの分科会を併せて実施した。

◆プレゼンテーション+ディスカッションⅠ「日韓コミュニティシネマ会議」

出演者：チェ・ナギョン[全国芸術映画館協会代表/アートハウス・モモ(ソウル)副代表]、チョン・サンジン[アートナイン(ソウル)代表]、ジユ・ヒ[アートナイン理事]、チェ・ヒョンジュン[ミルム劇場(インチョン)支配人]、田井肇[大分シネマ5/コミュニティシネマセンター代表]、志尾睦子[シネマテークたかさき支配人/高崎映画祭総合ディレクター]、司会：岩崎ゆう子[コミュニティシネマセンター] 通訳：延智美、ファン・ギョミン

◆プレゼンテーション+ディスカッションⅡ「上映者が作り手を育てる！」

出演者：長谷川敏行[SKIPシティ国際Dシネマ映画祭プログラミング・ディレクター]、山崎紀子[シネ・ヌーヴォ(大阪)支配人/次世代映画ショーケース2019]、宮崎善文[松本CINEMAセレクト代表]、山戸結希[映画監督/『21世紀の女の子』企画・プロデュース]、司会：川村健一郎[立命館大学映像学部教授]

◆プレゼンテーションマラソン2019

出演団体：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ、深谷シネマ、川越スカラ座、埼玉映画ネットワーク、新所沢Let'sシネパーク、NPO法人たかさきコミュニティシネマ、前橋シネマハウス、原村政樹[映画監督]

(2) ディスカッション&ワークショップ ※全国コミュニティシネマ会議分科会等

① 日韓のコミュニティシネマの交流が始まる！

実施日：2019年9月5日(木) 会場：映画美学校(東京都渋谷区)

参加者：41名

2019年6月に仁川で行われたイベント「仁川から横浜までー ジャック&ベティとミルム劇場」のレポートを聞き、今後の交流の可能性について、コミュニティシネマ会議のゲストとして来日した3つのミニシアター(アートハウスモモ・ソウル、アートナイン・ソウル、ミルム劇場・仁川)の人々と日本の参加者でディスカッションを行った。

② やっぱり、ここで映画をみたいー映画館をつくる/映画館を再生する(全国コミュニティシネマ会議分科会)

実施日：2019年9月7日(土) 会場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ(埼玉県川口市)

参加者：82名

1990年代初頭に全国に1500館以上あった映画館が、2018年には580館ほどに減り、全国各地に「映画館のない町」ができた。それでも「やっぱり、この町で映画をみたい、みせたい」と、閉館した映画館を新たな映画館としてリノベーションして再開、あるいは、コミュニティのためのごく小規模な新しい上映の場を作る人たちが増えている。様々な事例を聞き、課題や可能性を話し合った。

出演者：上野迪音[高田世界館]、舟橋一浩[川越スカラ座]、チェ・ヒョンジュン[ミルム劇場（仁川）]、梶原俊幸[横浜シネマ・ジャック&ベティ]、司会：櫛形一則[みやこ映画生活協同組合]

③ 映画館におけるデジタルシネマの今後と公共施設におけるデジタルシネマの導入を考える

実施日：2019年9月7日（土） 会場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ（埼玉県川口市）

参加者：45名

デジタルシネマ機の導入から10年近くを経過した映画館と、導入を考える公共文化施設等が集まり、デジタルシネマ機の現状、導入のメリット、予算等、上映者が抱えるデジタルシネマ機に関わる様々な疑問について話し合った。

出演者：山海隆弘[埼玉会館]、佐藤武[広島市映像文化ライブラリー]、堀三郎[アテネ・フランセ文化センター]ほか

（3） Fシネマ・プロジェクト の推進

映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持し続けるための「Fシネマ・プロジェクト」。ウェブサイト「Fシネママップ」内「シネマガジン」の記事の充実化や、フィルム上映会（こども映画館）を実施した。

① Fシネマの情報ポータルサイト「Fシネママップ（fcinemap.com）」の運営

2019年度に更新した主な記事

ディスカッション・イベントの記録：

韓国・ソウルでのフィルム映写ワークショップ（石井義人）、

全国CC会議2019採録「映画館におけるデジタルシネマの今後と公共施設におけるデジタルシネマの導入を考える」、

レポート「映画ミーツ浪曲」プレミア上映会（田井肇）、全国CC会議2018採録「地域の映像アーカイブとその活用について」

インタビュー/コラム：

NYのアート系映画のWebサイト「SCREEN SLATE」ジョン・デリンジャー氏インタビュー（増淵愛子）、

名画座人生、初めての特集～追悼（ノムミチ）

② 「こどもと映画」プログラム

ネットワーク・ミーティング *2.自主事業 [1] 「こどもと映画」プログラム・ネットワークの構築 も併せて参照。

「こども映画館」をさらに充実したものとするため、上映者のネットワークをつくり、情報交換や実施会場の見学、メンバーリスト内での上映作品リストづくり、新たなプログラムづくり等を行った。[5回開催]

ディスカッション「子どもと映画プログラム～若年層の観客を開拓する」（全国コミュニティシネマ会議分科会）

ディスカッション：2019年9月7日（土） 会場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ

参加者：40名

出演者：丸岡秀樹[デジタルSKIPステーション]、岡崎匡[ちいさなひとのえいががっこう]、河本清順[シネマ尾道]、村上朗子[川崎市アートセンター]、阿部久瑠美[鎌倉川喜多映画記念館]

各地で行われている「こどもと映画」プログラムを紹介し、上映作品の選定、ワークシートの作成、助成金取得の方法、対象年齢の設定等々のトピックスについて話し合った。

③ フィルム上映会「映画ミーツ浪曲」プレミア上映会 ※全国コミュニティシネマ会議で実施

実施日：2019年9月7日 会場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ（埼玉県川口市）

参加者：176名

・活弁付上映『出来ごころ』（1933/監督：小津安二郎） 活動弁士：坂本頼光 曲師：沢村美舟

・浪曲実演「紺屋高尾」 浪曲師：玉川太福 曲師：沢村美舟

・浪曲師 玉川太福と活動弁士 坂本頼光＋映画監督 周防正行（『カッペン！』）によるトーク

(4) アートマネージメントワークショップ イン 東北

東日本大震災の被災地、映画館がなくなってしまった東北の太平洋沿岸地域で、映画上映の場をつくり、映画文化の拠点づくりを支援するための事業。2019年度は岩手県釜石市で実施した。

実施期間：2019年12月-2020年1月 地域：釜石市（岩手県）

受講者：12名

講師：榊一則[みやこ映画生協]、磯田喜一[元第一劇場専務]、鈴木仁[元国際劇場映写技師]ほか

上映会…2020年1月11日 会場：チーム・スマイル 釜石PIT 入場者：40名

上映作品：『幕末太陽傳』（1957/110分/川島雄三監督）、『セーラー服と機関銃』（1981/112分/相米慎二監督）

[2] 「映画上映活動年鑑2019」の作成（文化庁2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業）

「映画上映活動年鑑2019」内容：

I 映画館での上映

(1)概況 (2)公開本数・公開作品 (3)諸外国との比較 (4)都道府県別概況

論考「次世代ショーケースの試み」

全国コミュニティシネマ会議2019採録「上映者が作り手を育てる！」

II 公共上映

(1)全国映画祭リスト

(2)公共の映画専門施設(シネマテーク)及び上映事業を行う美術館など

(3)上映事業を行っている公共ホールなど

全国コミュニティシネマ会議2019採録「子どもと映画プログラム～若年層の観客を開拓する」

III 特別調査

地域における「新しいコミュニティシネマ/新しい映画の場所」の可能性

全国コミュニティシネマ会議2019採録「やっぱり、ここで映画をみたい—映画館をつくる/映画館を再生する」

IV 韓国のコミュニティシネマ

アートハウス・モモ/アートナイン/サンサンマダン・シネマ/アートシネマ・シニョン劇場/シネマテーク・ソウル・アートシネマ/インデイスペース/その他の様々なコミュニティシネマ

全国コミュニティシネマ会議2019採録「日韓コミュニティシネマ会議」

V 資料

[1]都道府県別上映施設一覧

[2]上映に関わる用語

2. 自主事業

[1] Fシネマ・プロジェクト/シネマテーク・プロジェクト関連企画

(1) こども映画館

① こどもと映画プログラム・ネットワークの構築

「子ども映画プログラムをさらに充実したものとするため、情報交換や実施会場の見学、メーリングリストでの情報共有や、上映作品リストの作成、新たなプログラムづくりのための試写や意見交換を行った。(計5回)

主なネットワーク参加・上映会開催団体

鎌倉市川喜多映画記念館、川崎市市民ミュージアム、川崎市アートセンター、松本CINEMAセレクト、シネマ尾道、アンスティチュ・フランセ東京、山形国際ドキュメンタリー映画祭、たかさきコミュニティシネマほか

② 「スクリーンでみる日本アニメーション！」(国立映画アーカイブ共同事業)の巡回

映画をみて、日本のアニメーション映画の歴史や、様々なアニメーションの技法に触れ、アニメーション史を彩る作り手たちを知り、アニメーションを体験することができる、子どもたちにも、大人にも楽しんでもらえるプログラム「こども映画館スクリーンでみる日本アニメーション！」を、国立映画アーカイブの協力を得て、2019年度も継続して上映会を実施した。

合計3会場 観客数合計：277人(3プログラム)

- ・ 広島市映像文化ライブラリー 実施日：2019年10月22日 観客数：171人
上映作品：『白蛇伝(デジタル復元版)』
- ・ シネマ尾道 実施日：2019年12月21日-27日 観客数：89人
上映作品：『パンダコパンダ雨ふりサーカスの巻』
- ・ 松本シネマセレクト 実施日：2020年2月23日 会場：松本市美術館 観客数：17人
上映作品：「NFA」短編集3：さまざまな手法

③ 「こども映画館」ウェブサイト(kodomoeigakan.jp)の更新・運営

(2) フレデリック・ワイズマン特集

コミュニティシネマセンターでは、1998年に「フレデリック・ワイズマン映画祭」を開催して以来、少しずつ上映できる作品を追加し、36作品に上るワイズマン・コレクションを保有している。2019年春には『大学—At Berkeley』を日本初公開することができた。2019年度はこれらの作品を関西のミニシアターなど全国に巡回した。

巡回会場：

広島市映像文化ライブラリー(2019年6月)

名古屋シネマテーク(2019年5月)

宮城大学(2019年12月)

フレデリック・ワイズマンのすべて in 関西 実施期間：2019年10月3日-12月26日

会場及び上映作品(開催順)

同志社大学寒梅館：大学—At Berkeley

シネ・ヌーヴォ：コメディ・フランセーズ/パブリック・ハウジング/ DV/DV2/ボクシング・ジム/大学—At Berkeley

神戸映画資料館：メイン州ベルファスト/ 肉/ 州議会

出町座：高校/高校2/基礎訓練/大学—At Berkeley/メイン州ベルファスト

元町映画館：大学—At Berkeley/ボクシング・ジム/チチカット・フォーリーズ/パナマ運河地帯

京都みなみ会館：臨死/チチカット・フォーリーズ/動物園/肉/DV/DV2/霊長類/モデル/ストア/福祉/視覚障害/聴覚障害/適応と仕事/多重障害/霊長類/モデル

[2] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 「ジョージア映画祭」

2018年秋に岩波ホール創立50周年記念特別企画として開催され、大きな話題をよんだ「ジョージア [グルジア] 映画祭・コーカサスの風」で上映された作品を全国6会場に巡回した。

巡回作品：

- 1.私のお祖母さん 1929/67分/白黒/サイレント/コンスタンティネ・ミカベリゼ監督
- 2.スヴァネティの塩 1930/44分/白黒/サイレント/ミヘイル・カトジシュヴィリ監督
- 3.ケトとコテ 1948/90分/白黒/ヴァフタンク・タブリアシュヴィリ+シャルヴァ・ゲデヴァニシュヴィリ監督
- 4.大いなる緑の谷 1967/85分/白黒/メラブ・ココチャシュヴィリ監督
- 5.少女デウナ 1985/64分/カラー/DCP/ダヴィト・シャネリゼ監督
- 6.少年スサ 2010/79分/カラー/ルスダン・ビルヴェリ監督
- 7.微笑んで 2012/91分/カラー/ルスダン・チコニア監督
- 8.ブラインド・デート 2013/95分/カラー/レヴァン・コグアシュヴィリ監督
- 9.他人の家 2016/103分/カラー/ルスダン・グルルジゼ監督
- 10映像 2010/11分/ギオルギ・ムレヴリシュヴィリ監督
- 11.西暦2015年 2015/10分/ハトウナ・フンダゼ監督
- 12.メイダン 世界のへそ 2004/52分/ダヴィト・ジャネリゼ監督
- 13.ダンサー 2014/35分/サロメヤ・パウエル監督

巡回：

- 横浜シネマリン (2019年7～8月)
- 広島市映像文化ライブラリー (2019年9月)
- 鎌倉市川喜多映画記念館 (2019年9月)
- 大阪シネ・ヌーヴォ (2019年11～12月)
- 名古屋シネマテーク (2020年2月)
- シネマヴェーラ渋谷 (2020年3～4月)
- 高崎映画祭 (2020年3月→中止)

(2) 「映画/批評月間 フランス映画の現在」の準備、実施

昨年度、アンステイチュ・フランセ東京との共催で全国に巡回した「カイエ・デュ・シネマが選ぶフランス映画の現在」に続き、フランス映画の特集上映「映画/批評月間 フランス映画の現在」の実施及び2020年度の実施に向けて準備を行った。

巡回作品：

ベスト・オブ 2018/2019

- ポール・サンチェスが戻ってきた！(2018/101分/パトリア・マズイ監督)
- 20年後の私も美しい(2018/95分/ソフィー・フィリエール監督)
- マイ・レボリューション(2019/88分/ジュディット・デヴィス監督)
- ソフィア・アンティポリス(2018/98分/ヴィルジル・ヴェルニエ監督)
- ワイルド・ボーイズ(2018/110分/バルトラン・マンディコ監督)
- 僕らプロヴァンシアル(2018/137分/ジャン＝ポール・シヴェラック監督)
- 宝島(2018/97分/ギヨーム・ブラック監督)

批評家のドキュメンタリー

- ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像(2017/85分/ファビアン・アジェージュ+ギヨーム・ナミュール+ヴァンサン・アセール監督)

見出された映画作家ギイ・ジル

- 海辺の恋 (1963/73分)

オー・パン・クペ (1967/71分)

地上の輝き (1969/102分)

巡回：

京都みなみ会館 (2020年2月)

広島市映像文化ライブラリー (2020年3月→6月に延期)

(3) Fシネマ・ツアー「浪曲でたどる日本映画の再発見」への協力

(4) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

英国ドキュメンタリー傑作選、その他、当センターが保有する作品の貸出を行った。

[3] シネマエール東北（ポケモン新作上映会）の実施協力

2019年度は福島県、岩手県、宮城県内8会場で実施、合計1724人が来場した。

原ノ町生涯学習センター [福島県南相馬市] (2019年11月4日)

釜石PIT [岩手県釜石市] (2019年11月17日)

大槌町文化交流センター おしゃっち [岩手県大槌町] (2019年11月24日)

陸前高田市コミュニティーホール [岩手県陸前高田市] (2019年11月30日)

南三陸町ベイサイドアリーナ [宮城県南三陸町] (2019年2月1日)

亘理町中央公民館大ホール [宮城県亘理町] (2020年2月2日)

相馬市総合福祉センター「はまなす館」 [福島県相馬市] (2020年2月8日)

気仙沼市民会館 [宮城県気仙沼市] (2020年2月22日)

[4] その他の事業

(1) 会員相互割引サービス/デジタルシネマの情報共有など

・コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

・間近に迫るデジタルシステムの更新について情報提供を行った。*全国コミュニティシネマ会議2019参照

(2) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行った。

(3) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど

文化庁海外研修制度、芸術文化振興基金上映に対する助成、優秀映画鑑賞推進事業等々に関する情報提供、申請書類の作成に関するアドバイスを行った。